

や も と よ こ あ な 矢本横穴

— 丸子・道嶋氏一族の墓 —

横穴墓は、丘陵や台地の斜面に横に穴を掘って、亡くなった人を埋葬した古墳時代後期から平安時代にかけての墓です。矢本横穴には、当時の上総国で特徴的にみられる墓と同じ形態をもつものが多く、造営に丸子（のちの道嶋）氏が深く関わったことを裏付けています。墓からは男性のみならず、女性や未成年などの複数の人骨が発見されることから、赤井官衙遺跡に関わる一族（家族）の墓であったと考えられます。

これまでの調査成果

発掘調査は1968年、1969年に初めて行われました。その後、発掘調査は行われませんが、宮城県北部連続地震や東日本大震災によって斜面が崩れるなどしたため、災害復旧工事に伴い、約90基の横穴墓が調査されました。

人骨や土器をはじめ、刀などの鉄製品、まがたま勾玉などの装飾品、古銭など多数の遺物や副葬品が発見されています。



発見された横穴墓



玄室が一段高くなっている墓

こうだんしきよこあなほ 高壇式横穴墓

横穴墓の多くは、げんしつ玄室が一段高い位置に造られる「高壇式」と呼ばれる特殊な形態のもので、丸子氏の出身地（上総国）に特有の横穴墓に似ています。



人骨が集められている様子

埋葬のようす

多くの墓から複数の被葬者の骨が見つかっています。中には1つの墓に10体以上が埋葬されているものもありました。亡くなるたびに、順次追葬されたものと思われる。

横穴墓の構造

横穴墓は、亡くなった人を安置する玄室、玄室の入り口であるげんもん玄門までの通路であるせんどう羨道、葬式のような儀式を行うぜんていぶ前庭部からなります。また、形態には玄室の天井部分の形によって、おもにアーチ型・ドーム型・家型・平天井があります。矢本横穴では、アーチ型とドーム型が多く見られます。

横穴墓は古墳時代の後半に、九州北部で最初に造られるようになりました。その後、各地にみられるようになりましたが、東北地方では宮城県と福島県に分布、奈良・平安時代まで造られていたようです。

